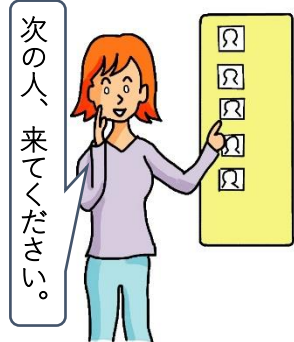


相談支援つうしん

＜第 59 号＞2020 年 2 月 26 日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ～教師編～

～校内の風景～

小学部の授業での出来事です。学部全体の学習の場面で順番に子どもが呼ばれるときに、右のような呼び方が聞こえてきました。もちろん、最初に子どもたちに順番は確認しており、名前で呼ばれる子どもや自分で順番に気づける子どもなど実態はさまざまです。通り一遍等に名前を呼ぶのではなく、実態に応じて呼び方を変えるといた微に入り細を穿つ指導がなされていると思いました。



別の日の中学部 2 年生の指導では、教室の掃除をする作業内容や分担の説明をした後に、次のような呼び方をしていることに気づきました。すぐに指示に合わせて動ける生徒、その生徒を見て動きだす生徒、同じ指示を個別に繰り返すことで気がつく生徒など、こちらも実態はさまざまでしたが、名前による呼称から発展的に所属意識を高め自我形成を促す取り組みがなされています。



こうした取り組みを目にすると、学部間で系統的な指導の連続性が整っていることや、先生方が子どもの認知発達に応じた取り組みをしていることが分かります。

改めて子どもの認知発達を促す太田ステージの実践マニュアルを確認してみると、StageⅢ-2 で自我形成を促す類似の取り組みがいくつか紹介されていました。たとえば、“ぼく”“わたし”といった代名詞の使用や“～している人は誰？”“女の子はこっちに来て”といった所属を意識した投げかけが記述されていました。その他のプログラムはマニュアルをご覧ください。余談ですが、このマニュアルの手描きイラストはいつ見ても味わい深く、新たな発見があり私は大好きです。

さらに、

このクラスの朝の会では、1 日のスケジュールを確認する際に右のような投げかけがありました。自分の世界に没頭しやすい A さんの特性に合わせた丁寧な指導だと思えます。スケジュールの確認 1 つとっても重要な指導の機会と捉えて毎日積み重ねていくその姿に、A さんの成長を信じる先生の熱意が伝わってきました。ちなみに、同様の指導は中学部の他の学年でもなされているので、学部で共有されている取り組みなのでしょう。

今日の生活の授業は視聴覚室で行います。A さん、生活の授業はどこでやりますか？



そしてさらに、

この指導が高等部になるとどのように発展されていくかという、すでに 2 年前の相談支援つうしん④号でご紹介していました。右図のように授業の開始時に学んだことを後で質問することをアナウンスすることで、生徒が授業の要点を聞き漏らさないように集中することをねらった指導がなされてい

授業の最後に今日学んだことを質問しますからね。集中して聞いてくださいね。



ました。この指導も毎回積み重ねることで成果を上げていました。

中学部と高等部の指導の系統性がどうして維持されているのかを考えてみたところ、1つの共通点に気づきました。それは、この高等部で指導を担当された先生が中学部2年にいることでした。こうした人事上の交流も、指導の系統性を維持向上する大きな要因だったと考えられます。※諸説あるかもしれませんが。

～アセスメント結果から実態把握、そして指導へ～

高等部では外部の中学校から進学してきた生徒に対して **ASA** **旭出式社会適応スキル検査** (略称 **ASA**) を中学校の担任の先生に実施してもらっています。この検査は子どもの様子をよく知っている保護者や担任が192項目の質問に回答することで、**言語スキル・日常生活スキル・社会生活スキル・対人関係スキル**の4つの領域の個人内差や相当年齢を見ることができます。

- ASA 旭出式社会適応スキル検査**
- A 言語スキル
 - B 日常生活スキル
 - C 社会生活スキル
 - D 対人関係スキル

今年度入学した生徒の結果を見てみると、**B日常生活スキル**の項目の「B5衣類の手入れ」が全体的に低いという結果が気になっていました。ある時、学年の先生から「この学年の生徒は洗濯ができないことが分かった」とのこと洗濯を学習活動に取り入れることになりました。火・水の授業の合間を使って、下のような順番表をもとに部活動等で使ったTシャツなどを洗濯機にかけ、干す、取り込む、たたむところまで行います。

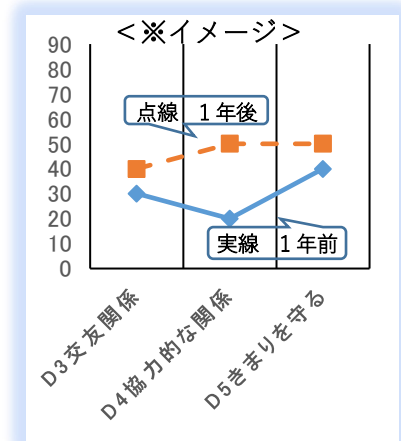
普段何気なくやっている洗濯も、洗濯物の量に合わせて洗濯機の表示を見て洗剤のラベルから量を判断するといった細かなプロセスがあることに改めて気づかされます。様子を見てみると、洗剤を入れる、干す、たたむ、のいずれか、もしくはすべてに困難を抱えている生徒がおり、こうした活動をするによって課題が見えてきました。さらに、干すという過程を例に挙げると、小さめのタオルだと手首が硬くて上手く振ってしわを伸ばせない生徒もおり、その生徒の書字の苦手さは手首の硬さが影響していることも分かりました。こうした活動を通して新たな学習内容を検討する機会になったそうです。

洗濯活動順番 ※名前は架空のものです

順番	メンバー	順番	メンバー
1	下田 大川	2	野田 坂橋
3	坂木 木嶋	4	岩木 矢口
5	新庄 内川	6	佐戸 湯山

📌 **アセスメント結果を学習活動の中で確認する**

アセスメントの結果は絶対的なものではないので、必ずその結果を日常生活の中で確認します。本校では、ASAを高等部入学前の資料として実施し、1年後に実態を再評価します。そこから個別教育計画を立案したり伸び具合を評価の根拠としたりします。また、こうしたアセスメントを実施すると、自分の目では見落としていた視点や領域があることに気づくことができます。



📌 **学校生活のあらゆる時間を指導の機会とする**

今回ご紹介した高等部の取り組みのように、授業の枠にとらわれない柔軟で継続的な実践がどの学部でも枚挙にいとまがないほどたくさんあり、「この短い時間にこんな指導の工夫もあるのか！」と驚くこともしばしばです。実際、洗濯は授業の合間の隙間を縫うように行われていますが、生徒たちに合わせて先生たちも実に生き生きと活動に取り組んでいます。そんな先生方の姿を見たときに、特別支援学校の専門性の一端を垣間見ることができて胸が熱くなります。